

令和 4 年度 事業者防災訓練における課題対応について

1. 令和 5 年 2 月 14 日に実施した事業者防災訓練において確認された課題のうち、「重要」と位置付けて取り組む問題点と課題について分類し、それらに対する原因分析、対策の検討を行った結果を表 1 に示す。

今回の問題点/課題のほとんどが ERC 対応と対策本部の問題であった。

表 1 【令和 4 年度事業者防災訓練で確認された課題】

No.	区分	問題点/課題	原因	対策
1	ERC 対応	【通信環境】 ・Webex を使用した ERC プラント班への情報提供において、訓練冒頭からマイクの音声聞き取りにくい旨の指摘を受け、電話回線を使用することになってしまった。	・マイクのボリュームが大きく、ERC 側の音声聞き難くなってしまった。 ・代替通信機器である電話機の機能(音声の共有等)が充分でなかった。	・マイク及びアンプのボリューム調整並びに配置等の調整を行った。 ・通信環境の多様化として、ERC 対応ブースの電話機の更新、ヘッドセット及び電話会議システムを配備し、再構築した。 ・スムーズに通信機器を操作できるように ERC 対応者に要素訓練を実施して練度の向上を図る。
2	ERC 対応	【情報伝達機器の使用】 ・書画装置を用いての説明が不慣れであり、事象の説明も特に「いつ」が抜けていた。	・書画装置の使用について習熟が不足していた。受話器を持ちながらの書画装置の操作となったことも一因。 ・ERC 対応者の習熟も不足しており、ERC 側が「見にくく分かりにくい」説明となってしまった。	・書画装置近傍に書画装置使用にあたっての留意事項を掲示した。 ・書画装置の使用方法を ERC 対応者に周知し、要素訓練を実施して練度の向上を図る。
3	ERC 対応	【情報伝達資料】 ・施設状況について、COP を使用して総括的な説明を速やかにできるようにすべき。 ・放射線トレンドグラフの活用	・対策グループにおいて現場から提供された情報の集約が遅れるなど用意していた「基本情報集約表」がうまく活用できなかった。 ・放射線データはまとめていたが、グラフは手書きでプロットしていたため、タイムリーな報告ができなかった。	・「基本情報集約表」及び「情報連絡票」を改善し、ERC 対応者、対策グループ及びその他機能班に同時に情報提供できるようにした。 ・施設状況を一目で把握することができる COP に相当する「施設状況説明図」を用意した。 ・放射線データからトレンドグラフを自動作成するとともに、Webex の画面共有でタイムリーに ERC プラント班に報告することとした。 ・上記対策に関し、ERC 対応者に要素訓練を実施して練度の向上を図る。
4	ERC 対応	【情報伝達の遅れ】 ・対策グループから ERC 対応者への情報伝達がタイムリーにできなかった。 ・ERC プラント班へ SE/GE の情報を連絡するのが遅かった。 ・対応戦略も対策実施前に説明すべきであったが、実施後の説明となってしまった。	・対策グループにおいて現場から提供された情報の集約が遅れるなど用意していた「基本情報集約表」がうまく活用できなかった。 ・ERC 対応者が質問への回答に注力するあまり、すぐに伝えるべき情報を後回しにしてしまった。 ・対策グループにおいて対応戦略を立案していたが、タイムリーに ERC 対応者へ情報伝達できなかった。	・「情報連絡票」の改善及び ERC 対応補助者の配置等、情報伝達ルート改善し、ERC 対応者へのタイムリーな情報伝達を実現する。 ・対策グループ、ERC 対応者及び ERC 対応補助者に要素訓練を実施して練度の向上を図る。 ・ERC 対応補助者の役割分担を整理し、対策グループから ERC 対応者へのタイムリーな情報伝達を実現する。

No.	区分	問題点/課題	原因	対策
		・25 条報告が大幅に遅れてしまった。	・情報管理グループにおいて記事締め切り後に入った情報も加えようとし、FAX 文の追記/チェックを繰り返したため、発信までに時間を要してしまった。	・記事締め切り後の情報は原則次報で報告すること及び 25 条報告は最長でも前報から 30 分以内に発出することを情報管理グループに周知徹底し、要素訓練を実施して練度の向上を図る。

2. 再訓練について

上述の表－1【令和4年度事業者防災訓練で確認された課題】で抽出した課題への対応策が有効に機能していることを確認するため、ERC プラント班との連携を主眼にした要素訓練の位置付けとして、再訓練を実施のこととしたい。

以上